

< 認知症対応型共同生活介護用

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

事業所番号	4670105065
法人名	医療法人 明輝会
事業所名	グループホーム ひばり
訪問調査日	平成 21 年 1 月 27 日
評価確定日	平成 21 年 2 月 10 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 1月31日

【評価実施概要】

事業所番号	4670105065
法人名	医療法人 明輝会
事業所名	グループホーム ひばり
所在地	鹿児島市吉野町2042番地 (電話) 099 - 295 - 7033

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山1丁目16番7号
訪問調査日	平成21年1月27日 評価確定日 平成21年2月10日

【情報提供票より】21年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 4 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	19 人 常勤 14 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 17.5

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 1階建ての 階 ~ 1階部分
------	------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	22,000(共益費) 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		700	円

(4) 利用者の概要(1月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	6 名	要介護2	1 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2			
年齢	平均 85.5 歳	最低	76 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	内村川上内科 ・ 大田歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市北部に位置し、閑静な住宅地で古くからの住宅と新興住宅が入り混じった一角に、グループホームひばりがある。同法人が運営する小規模多機能ホームが同じ敷地にあり、高齢者専用賃貸住宅が隣接している。中庭を囲むように二つのユニットと小規模多機能が扉一つで繋がっている為に、利用者、職員の交流も行われ、にぎやかである。職員は、「住み慣れた地域で、その人らしく生活できるように寄り添うケアを行います。」という運営理念をケアの中心において、利用者一人ひとりの思いを大切にケアに取り組んでいる。また、運営母体が医療法人である為に、緊急における医療連携体制も整っており、利用者と家族にとって安心できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果については職員に伝えられ話し合いが行われている。改善に向けた取り組みが行われている項目もあれば、まだ継続中の項目もある。市町村との連携、同業者との交流を通じた向上については、取り組み継続中である。介護計画の作成と見直しについては、家族の意見を聞き介護計画書に反映させている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニットごとに職員全員で話し合ったものを、管理者がまとめている。自己評価の地域密着という文言を通して、利用者と地域のつながりをどのようにケアに活かしていかせるかを意識するようになり、ケアを振り返り、見直す機会となっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回、民生委員、地域代表、家族代表、法人理事長、包括支援センター職員、管理者、ケア主任などが参加して行われ、事業所の現状報告、利用者の状況報告などが行われている。事業所が抱えている課題について意見交換が行われ、ケアのマンネリ化については、学生ボランティアなどの活用や地域との交流などで福祉館を活用してはどうかとの意見が出され、活用しているところである。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	年2回開かれている家族会や運営推進会議、面会時などに家族の意見や苦情、要望など出してもらえるように配慮している。苦情受付窓口は管理者が対応しているが、今までに苦情は無いので匿名で意見や苦情を出しやすいように、意見箱の設置も検討されている。家族からの要望があった場合は職員全員で共有し運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会への加入を希望しているがまだ許可が出されていない。敷地を解放しているの、近所の方の散歩コースになっていたりと、子供達が寄ってくれたりして、日常的に声をかけ合い顔馴染みになっている。事業所での餅つき大会には地域の方達にも参加してもらい交流している。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「住み慣れた地域で、その人らしく生活できるよう寄り添うケアを行います。そのために私達は、持てる限りのあらゆる能力・技術・資源を提供し、ご利用者ご家族が地域で生活することができるように援助を行ってまいります。」という地域密着型サービスの運営理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時に唱和して確認している。いままでの地域での生活を断絶させないように、利用者が家に帰りたいと言われた時には家族の協力を得ながら、希望に沿うように対処するなど、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの福祉館を訪問したり、地域の祭りに参加したりしている。事業所の敷地を開放しているため、近所の方が散歩していたり、子供達が寄ってくれたりと声をかけ合い顔馴染みになっている。餅つき大会には、地域の方々にも参加してもらい交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価の結果については、職員に伝えられ改善に向けた取り組みが行われている。自己評価については、各ユニットごとに職員全員で話し合い管理者がまとめている。地域密着という文言を通して、利用者とのつながりを意識するようになったことなど、ケアを振り返る良い機会となっている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では事業所の現状報告、利用者の状況報告などが行われ、事業所の課題点について意見交換などが行われている。ケアのマンネリ化については、外部からの刺激を与える為にもボランティアを活用してはという意見が上がり、検討してボランティアの要請をするなどサービスの向上に活かしている。		

鹿児島県 グループホームひばり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の受け入れや社会福祉協議会の会議に参加している。		運営推進会議には2ヶ月に1回、包括支援センター職員が参加しているが、市担当者との関わりはあまりなされていない。事業所が市役所に出向き、直面している運営の課題解決に向けて市担当者へ働きかけるなど、積極的に情報提供などを行われることを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月「ひばり便り」を送付し利用者の日頃の様子などを報告している。面会時には「往診受信表」で健康状態を報告し、金銭出納帳に領収書が貼りつけてあり確認のサインをもらっている。また、必要に応じて電話で連絡をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会や運営推進会議、面会時などに意見や要望などを言ってもらえるように配慮している。苦情受付窓口は、管理者が対応しているが今までに苦情はなく、要望などがあつたときは職員全員が共有し運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動・離職については最小限におさえているが、やむを得ない場合には、引継ぎの期間を十分取るようにしている。ユニット間での異動は行われていないが、扉一つで繋がっているため職員同士の行き来もあり、利用者とも顔なじみの関係が築かれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、法人全体、同法人のグループホームの勉強会が行われている。外部研修についても、参加する職員が偏らないように配慮し、研修報告書を提出し職員会議で研修内容を報告している。		職員各自の経験、能力、立場に応じた段階的、計画的な学びの機会を確保できるように年間計画を立てられ、職員が学びたい内容についても意見を出し合い研修に組み入れていかれることを希望します。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人のグループホームとの交流の他に、吉野地区グループホーム協議会が発足し懇親会が行われている。		吉野地区グループホーム協議会が発足し今後の勉強会、交流会、他のグループホームとの職員の相互訪問などの実現にむけた取り組むを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に本人や家族に見学に来てもらい雰囲気になじんでもらうようにしている。緊急で入居した場合には、安心されるまで家族の面会を多くしてもらったり、職員の関わりを増やしていくなど安心してもらえるように配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者が昔の生活や仕事について語れるように、1対1で向き合う時間を大切にしながら、利用者の得意分野、煮しめやあくまき作り、野菜の栽培方法を教えてもらい感謝の言葉を伝えている。利用者も職員に対して、労いの声かけや重い荷物を持ってくれたりとお互いに支え合う関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日頃の会話や表情などから思いを把握すると共に、個別日常生活日誌(利用者が言った言葉)から、利用者の意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族から暮らしの意向を確認し、カンファレンスでの職員の意見を参考にし、担当医師の指示や看護師の情報などを盛り込んだ介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月ごとに短期目標の評価を行い、変化のあった利用者にはその都度見直し、家族から要望があった場合にも見直しを行っている。</p>		

鹿児島県 グループホームひばり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制により看護師が週1回健康状態をチェックし管理している他、医師による往診も行われている。家族からの要望があれば病院受診に付き添ったり、利用者の希望で墓参りや展示会などの外出支援も臨機応変に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、家族の希望を確認し納得した上でかかりつけ医を決め、適切な医療が受けられるように支援している。職員が病院受診に付き添った場合には、往診受診表に内容を記録し、家族の面会時や電話で報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所として看取りに関する指針を作成し、入居時に家族に説明している。法人内で終末期についての勉強会も行われており、家族の希望があればいつでも看取りを行える準備はできている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の部屋に入る時や、排泄の誘導をする時の声かけなど、プライドを傷つけないように配慮している。また、男性職員による女性利用者の入浴介助は行っていない。個人情報保護法についての勉強会も行われており、記録物についても適切に管理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が自宅に帰りたと言われたときには、車で連れて行ったり、希望があれば買い物、散歩、馴染みの美容室、展示会などに出かけている。また、手芸をしたり、新聞をよんだり、夜には必ず晩酌をするなど、一人ひとりのペースや希望に合わせて支援を行っている。		

鹿児島県 グループホームひばり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に育てた野菜を使用したり、会話の中から食べたい物を聴いてその日の献立にしたりしている。利用者はそれぞれの力量に応じて、下ごしらえや片付けなどを行っている。職員と利用者は同じテーブルを囲み、談笑しながら食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間や回数は利用者のペースに合わせているが、週3回は入浴できるようにしている。拒否される利用者に対しては、声かけの時間をずらしたり、職員を替えて声かけするなど工夫している。女性利用者の気持ちを汲んで男性職員による入浴介助は行っていない。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の生活歴から得意とすることや好きなことを見つけて、それぞれの場面作りをしている。部屋の掃除や、洗濯物たたみ、お花を活ける、買い物荷物の持ち運びなどの役割と、大正琴を弾いたり、手芸、折り紙、新聞を読むなど、時にはドライブ、墓参り、自宅へ行ったりと楽しみ、気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買出しに毎日交代で行ったり、天気の良い日は散歩したり、中庭に出てお茶を飲んだり、希望があれば展覧会や美容室などへいつでも出かけられるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵はかけていない。外出傾向の方について職員は把握しており、必ず付いていくようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下、年2回消防避難訓練を夜間想定、昼間想定で行うと共に、毎月、火災訓練を自主的に行っている。備蓄については、法人が行っている。		事業所として隣接する法人の施設と共に、自主訓練を毎月行い、職員の意識を高めておられるので、更に一歩進めて、地域からの協力を得られるように働きかけられることを希望します。

鹿児島県 グループホームひばり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養は1500kcal、水分は1000ccを目安にしており、摂取量については毎日チェックしている。栄養のバランスは、法人内の管理栄養士からアドバイスを受けている。食事形態については、ミキサー食などそれぞれに対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには六角形のテーブルが2つ合わせてあり、アイランドキッチンからは、料理の匂いや包丁の音が聞こえて家庭的な雰囲気である。ホールの一角には畳みの台があり、テレビを見たり洗濯物を畳んだり、休めるようになっている。壁には、利用者と一緒に作った今年の干支の大きな牛や思い出の写真が飾られ、中庭からやさしい風と光が入り居心地よく過ごせるようになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族と一緒に選んだのれんが、それぞれに掛けられている。居室には洗面台とトイレがついており、利用者は使っていたベットや布団、ソファ、テレビ、時計、タンス、パイプハンガー、ぬいぐるみや家族の写真、大正琴などが持ち込まれその人らしく暮らせる居室となっている。		